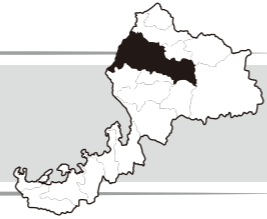


## 第3分科会

来て見て越前海岸フェア  
～夕日の美しい越前海岸でのまちづくり～



榛名まちづくりネット 芹澤 優さん

15日の前夜祭から参加したかったのですが、今回は、群馬県からの参加者は一緒に出発するという事で16日の朝、出発しました。前夜祭に参加すると開催県のおもてなし状況がわかるのですが・・・。

分科会は、希望した分科会ではなく第三分科会福井市（越前海岸コース）に割り振られました。分科会のテーマは、「来て見て越前海岸フェア～夕日の美しい越前海岸でのまちづくり～」でした。この地域は、歴史に名高く自然に恵まれ風光明媚なロケーションもあり地域資源（宝）が豊富な地であります。

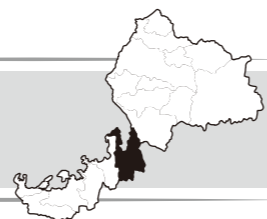


しかし、ご多分に漏れず、ここでも我が地域「榛名山麓」同様に少子高齢化・人口減少が進行しており後継者（越前カニの漁師）不足で悩んでおりました。この状況を打破すべく、合併した町村の自治会の会長さんが中心になって地域づくり協議会を立ち上げ、地域の老若男女住民一同が今一度地域の現状に目を向け、地域の実情と向かい合いながら活動し始めたとのことでした。地域の宝を再発見し、宝を活かした人情味溢れる活動により地域が再稼働し始めている姿を垣間見ることが出来ました。

また、殿下地区活性化センターで活動している生活改善グループのご婦人方は、地域資源「葉っぱビジネス（桐葉）」で作っている「葉寿司」の売れ行きがよく84歳の会長さんの説明では、がっばりが儲かるようになって夫婦仲が良好とのことでした。やはり、地域を担っているのは女性であることが再確認できましたので、この研修を参考に一層の努力を重ね、我々の地域も活性化を目指して参りたいと存じます。

## 第4分科会

ドラマチックヒストリー  
つるが鉄道と港の夜明け物語  
～敦賀を支えつづける人々の想い～



きりゅう市民活動推進ネットワーク 蓼沼 千秋さん

事務局の提案で、群馬からの参加者の交流を計るため往復を一緒に行動しました。9名で5時間の電車の旅がスタート。早速、名刺交換やチラシ、イベント等の情報交換。県職員の名刺がぐんまちゃんの形をしていたり、市のゆるキャラのマスコットを活用していたりと、群馬のPRのため、それぞれ工夫していました。

さて、敦賀ですが、福井駅に着いたと思ったら、またバスで1時間半ほど移動し、やっと港街敦賀につきました。第4分科会は、一番人気で28名の参加があり、行政関係の男性の参加が多くありました。明治時代、東京一敦賀港を結ぶ「欧亜国際連絡列車」が走る鉄道と港のまち敦賀。昔の敦賀鉄道の跡が残る町並みを散策しました。道路幅がとても広く（か

つて線路）アーケードもゆっくり車が通れるくらい広いのが印象的でした。

駅前商店街の取り組みとして「ふれあい市」の事例発表があり、広い空間の使い方やリピーターを増やすのが課題とのことでした。1999年に敦賀開港100周年を記念して、「銀河鉄道999」「宇宙戦艦ヤマト」のモニュメントを駅から氣比神宮までの商店街沿いにつくり、シンボルロードが完成し、多くのアニメファンが訪れるそうです。街中にある氣比神宮は市民のオアシスとなっており、地域活性化事業として商工会議所の青年部が近くの商店街でフェスタを開催しています。港では、旧敦賀港駅舎の「鉄道資料館」やリトアニア領事代理の杉原千畝氏が6,000人ものポーランド系ユダヤ人の命を救った業績を称えた「敦賀ムゼウム」などを見学しました。ヨーロッパとの交通の拠点だった国際港としての敦賀の歴史を感じることができました。

古民家再生プロジェクトでは、歴史的な町並みの再生を計り景観は損なわずに改築し、若い人達に活躍の場を提供しており、カフェレストランやパン工房、雑貨店などに生まれかわっていました。平成26年度の自動車道の開通や北陸新幹線開業を見据え、集客の拠点となる街づくりを目指しており、市民の協力で、軒先の飾り籠や店先玄関口などに季節

きりゅう市民活動推進ネットワーク 飯野 マリエさん

参加者は38都府県290名、初日の全体会は参加できなかったが敦賀市の第4分科会に参加することとなった。

まずは敦賀駅周辺のまちづくりについて、駅前商店街組合の方より活動紹介を受け、町を散策した。駅前の商店街は、以前線路があったらしく道幅が広がっているため、買い物に来る高齢者にとっては横断が難しく悩みの種とのことであった。私が活動をする桐生では撤去の方向となっているアーケードは、店の前に車をタテに駐車できるほど大きなものが設置されていて印象的だった。しかし、このアー

感のある寄せ植えを統一された植木鉢で飾っていて、とてもおしゃれな素敵な空間になっていました。

敦賀のおもてなしは、皆さんとても親切でした。まちの人達の話し方は穏やかでやさしい感じです。なかでも一番印象に残っているのは、地元高校生の皆さんの案内ガイドでした。初々しくて一生懸命でとても可愛かったです。「きらめきマーケット」という販売実習の授業の一環で行われ、今回初披露のため地元のケーブルテレビの取材や福井新聞にも掲載されました。私達もよい機会に恵まれました。若い彼らが街づくりのプロジェクトにいろいろ参加しているのを見て、とてもうれしくなりました。これからの活躍が楽しみです。

また機会があれば、訪れてみたいと思いました。



ケードも地域によって残すところと撤去するところがあるとのことだった。

続いて、鉄道資料館、人道の港敦賀ムゼウムを見学。ボランティアの高校生が一生懸命説明する姿はとて初々しくてすばらしかった。

個人的には、杉原千畝がおよそ6,000人ものユダヤ人を救った日本で唯一の港「東洋の波止場」という敦賀港は「人道の港」でもあったということに感銘を受けた。迫害を受けていた多くのユダヤ人達にとって、敦賀港での一步は自由と平和を実感した場所であり希望でいっぱいだったろうと思い、胸